

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷高等学校)

目指す学校像	これからの日本と世界に貢献できる人材を育成する、伝統を重んじ、活力に満ちた進学校
--------	--

重点目標	創立120周年を機に、今後の10年を見据えた取組を行う。 1 高い志を育成し、第一志望の進路を実現させるため、学力向上に向けた組織的な取組を実践する。 2 本校の特色や魅力を効果的に広報するとともに、県内小中学生と積極的な交流を図る。 3 伝統に培われた教育活動全般(学業・部活動・学校行事)を通じて、人間味のあるリーダーに育てる。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価					年度評価 (2 月 1 日 現 在)	
年 度	目 標	年 度 評 価	評 価	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次年度への課題と改善策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次年度への課題と改善策
1	○近年、国公立大学合格者数増加など進学指導の取組の成果が上がってきているが、平成26年度は国公立大学合格者が107名(現役47名)、難関私立大学合格者は284名(現役124名)だった。「リーダー育成・進学指導重点推進校」として、多角的・総合的な指導を通じて更なる進学実績の向上が期待されている。 ○SSH5年目として事業の完成に向け、更なる改善を進めている。2期目への更新に向けて校内体制を整える。引き続き、「熊高ゼミ」による論理的思考・表現力の育成を図る。	○第一志望を実現させる進路指導の充実及び進路実績の向上	①1年次の講演・集会、キャリア教育等を通じて志を育成し、組織的な進路指導により高い進路希望を維持させる。 ②学年や教科担当者と連携を図り、きめ細かい学習ガイダンスを行うことで自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ③生徒自らが考え、学ぶ授業を展開し、授業を更に活性化する。	①現役合格者数が国公立大学70名、うち難関国立大学10名を超えたか。 ②平日に学年+1時間以上学習する生徒が各学年全体の7割を超えたか(早朝、放課後含む)。 ③「生徒による授業アンケート」等で授業中に発言・質問をする生徒の割合が増えたか。	第一志望の実現に向けて引き続き進路指導の充実が必要。 ①国公立大77(現役37)名の合格 ②1年38.8%→22%、2年8.2%→12.1%、3年15.9%→72%だった。(5月→12月) ③12月アンケート52.5%だった。真面目に受けているが受身の生徒が多い。	【課題】 ○高い志の育成と難関大学合格者数の増加 【改善】 ○センター試験の得点アップを図るため、早い段階で受験意識を高め、学習時間を確保させる。 ○生徒の主体的学びを取り入れた授業改善を推進する。 ○進学型単位制を軌道に乗せる。 ○SSH第2期に向けて、全教科が関わる体制を作る。
		○SSH事業を通じた、「生徒の高い志と発想力」「論理的思考力」の育成	①SSHに関する講演会、模擬講義、校外研修、課題研究、科学教室、出前授業、熊高ゼミ等を通じて、意欲関心・論理的思考力を高める。 ②TIMSSやコースワークを活用した評価を実施・分析し、SSH事業における生徒の変容の客観的評価方法を検証する。 ③英語によるプレゼン能力を高める。	①好奇心、考える力、問題解決能力のアンケート項目が昨年より上昇したか。 ②論理的思考力が伸長し、意識の変容が図られたか。 ③サイエンスフェア等、英語によるプレゼンの機会が増えたか。		
2	○昨年度NetCommonsを導入し、ホームページをリニューアルした。土曜公開授業、学校説明会を含む本校の教育活動や本校の良さを多様な情報ネットワークを利用し更に積極的にPRする。部活動についても最新情報を随時掲載する必要がある。 ○保護者や小学校・中学校をはじめとする地域社会と連携し、本校の信頼を一層高めるとともに、本校で学びたいと強く思う中学生を増やす。	○積極的かつ効果的な広聴広報活動	①画像等の情報を迅速にHPに更新するとともに内容の充実をさらに図る。 ②携帯メール一斉送信により必要な情報を随時送信したか。 ③マスコミ等へ本校の取組を積極的に情報提供する。	①ホームページのアクセス件数が増加したか。 ②携帯メール一斉送信により必要な情報を随時送信したか。 ③マスコミ等で何件本校が取り上げられたか。	HPの充実を図り、広報ツールとして十分活用できた。 ①今年度新たに管理職によるブログ「赤豊」を創設し57,000件、HP総数87,000件アクセス数があった。 ②定期的に月1回、緊急の際は随時メールを送付した。 ③埼玉新聞を中心に11件取り上げられた。	【課題】 ○積極的な広聴活動の推進 【改善】 ○今年度新設した広報部が部活動体験等の新たな取組を企画した。効果的な生徒募集を更に推進する。 ○生徒の自主的なボランティアを推進し、地域とのつながりを強化する。 ○地元中学校との連携を更に深める。
		○地域社会との連携推進	①ボランティアを含め、地域行事への参加・協力や小中学校との連携をさらに推進する。 ②学校説明会時に中学生対象の部活動体験を実施し、生徒同士の交流を図る。 ③創立120周年記念行事の成功に向けて地域関係者と連携を密にする。	①昨年以上に地域行事や小中学校行事への参加・協力ができたか。 ②学校説明会への参加者数が増えたか。部活動体験に多くの中学生が参加したか。 ③6月と9月に実行委員会を実施し、記念式典開催の協力体制を整えたか。		
3	○「質実剛健」「文武両道」「自由自治」の校風が学校生活に活力を与え、人間力の形成と向上につながっている。生徒同士の学びあいの場、話し合いや発表の場、活躍の場をさらに増やし、リーダーとしてバランス感覚のある生徒の育成が期待されている。	○「学力」「体力」「良識」の調和のとれた、将来、日本の社会をリードする生徒の育成	①「学業・部活動・学校行事の鼎立」を踏まえ、学業を第一義に部活動や行事の更なる充実に取り組む。 ②社会で活躍する人材を招き、「真のリーダーとは何か」を考えさせる。 ③図書館開館時間の延長、放課後の教室開放等により「学ぶ集団づくり」を推進する。	①生徒が主体的に学校行事や生徒集会を運営したか。全国大会、関東大会に7部以上出場できたか。 ②事後の感想やアンケート結果等で社会で貢献しようとする志を持つ生徒が増えたか。 ③放課後に図書館や教室で学習する生徒の数が増えたか。	生徒が「三本の矢(学業・部活動・学校行事)」に全力で取り組んだ。 ①関東大会に7部が出場。地学オリンピック本選出場、科学の甲子園県予選総合競技部門3位、総合4位 ②「生き生き仕事人」のアンケート結果より、将来を考えるきっかけとなった48%、高校時代に何をすべきかわかった41% ③放課後の図書館利用者数1学期平均38名、2学期平均32名、3学期平均27名、全体で34名。	【課題】 ○バランスのとれたリーダー感覚の育成と学ぶ集団づくりの推進 【改善】 ○多方面で活躍するOBの人材を活用し、社会で通用する人間を育成する。 ○公の場で発表したり意見交換したりする場を増やす。

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日	平成28年2月18日
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒自らが考え、学ぶ授業を展開」とあるが生徒の主体性を発揮させる具体策が乏しい。 ・「高い志」とは何か? 「志」の意味を伝えていくことが大切。 ・キャリア教育の積極的な推進を。本物に触れる、会社を訪問する、社会人とコミュニケーションを持つ等。 ・有名大学に入れば一生安泰という時代ではなくなったが、将来の大まかな方向性を早めに決めるため二者面談等で生徒の話聞いてほしい。 ・SSH2期目の更新に更なる成果を期待。 ・学年+1時間の学習時間は継続が難しいが隙間時間の活用で可能である。 ・発言しにくい授業もある。先生と生徒との相互的な意見交換ができる授業が良い。 ・テスト直前に進度が急に上がる傾向にある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・HPのSSH専用サイトは良い。 ・新聞等マスメディアでの広報はかなり効果的である。 ・自主的ボランティアの活動は素晴らしい。 ・地域ボランティアや地域連携により生徒も得るものが大きい。その反面、定形事業となり、生徒の工夫や自主性がなくなることは避けたい。 ・生徒募集では熊高の良さを知らせるためにも積極的に塾訪問をしても良いのでは。 ・HPへの掲載は効果的な宣伝活動になると同時に参加した生徒にも良い効果がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「7つの習慣(主体性を発揮する、目的を持って始める、重要事項を優先する、Win-Winを考える、理解してから理解される、相乗効果を発揮する、刀を研ぐ)を1つの指針に。 ・問題解決能力よりも課題形成能力を。 ・これまで通り、自主自立重んじてもらいたい。 熊高の気質に合う、心身ともにタフに育てたいという保護者は多い。 ・「学力」を意識させ過ぎて部活動・学校行事へのエネルギーをセーブすることのないよう指導してもらいたい。 ・「自由と自治」を生かしたリーダーになりたい。 	